

F.ベアト撮影・ダグラス中尉旧蔵写真アルバム 横浜里帰り記念 プレス発表会 兼 株式会社三陽物産と公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団の 「横浜の歴史文化」の普及啓発に関する協定書 締結式のご案内



F.ベアト撮影・ダグラス中尉旧蔵写真
アルバム
山本博士氏所蔵・横浜開港資料館保管



◆161年ぶりに横浜へ里帰りしたアルバムの実物について専門調査員が解説します

横浜はわが国写真発祥の地の一つです。幕末に開港した横浜、当時の様子を撮影した外国人カメラマンとして最も著名な人物の一人に、1863年(文久3)に来浜したフェリーチェ・ベアト(Felice Beato 1832~1909)がいます。ベアトは横浜にスタジオを構え、幕末から明治初期の日本各地を撮影し、質の高い風景・風俗写真を残しており、これまで横浜市ふるさと歴史財団が管理運営する横浜開港資料館では意欲的にその作品を収集してきました。

このたび、イギリスに伝存してきたベアトが日本で制作した最初期のアルバムを、株式会社三陽物産山本博士代表取締役社長が取得し横浜開港資料館へ寄託されましたのでお披露目いたします。アルバムは、撮影から実に161年の時を超えて、ふるさと横浜への里帰りとなります。

◆横浜の歴史や文化を伝えるための連携協定の締結式を実施します

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団では、定款に定める法人の事業目的に沿い、管理運営する横浜開港資料館をはじめとする各施設において、所蔵・管理する歴史資料を通じた「横浜の歴史文化」に関する普及啓発を行い、広く横浜の歴史を発信していくことによって、市民のふるさと意識の醸成、市民文化の発展に寄与することを目指しています。この度、この目的に賛同し当財団と連携した取り組みを推進している株式会社三陽物産(代表取締役社長山本博士)との連携を強化することし協定書を締結します。

◆里帰りしたアルバムについて

本アルバムは Japan Society (日本協会、ロンドン) が旧蔵していたもので、元々はイギリス艦船エンカウンター号 (HMS. Encounter) 乗組みの海軍中尉ダグラス (A. Douglas) が 1892 年に同協会に寄贈したものです。1 頁目の左端に「No.10 F Beato」とのエディションナンバーと署名があり、ベアトが日本における撮影活動の初期に制作したアルバムとしてきわめて資料的価値が高いもので、表紙見返しには「Yokohama Desember 20th 1863」の日付が記されています。エンカウンター号は 1864 年 1 月 1 日に中国に戻っており、ダグラスが日本を離れる直前に本アルバムを入手したことを示しており、本アルバムの写真撮影年代は 1863 年 12 月以前ということが明らかです。

アルバムは和製本の四つ目綴じで、赤茶の絹表紙 (1 冊)。サイズはヨコ 46.8×タテ 35.8×厚さ 3.5 cm。台紙 42 枚に写真 38 枚 (内 1 枚はワーグマンの水彩画を撮影したもの) とワーグマンの水彩画 2 枚が貼付されています。写真台紙には手書きのキャプションが記されており、野毛から見た横浜遠景、横浜の運河、弁天社、横浜の警備小屋といった横浜居留地を写したものが多く含まれます。そのほか、鎌倉鶴岡八幡宮、高德院の大仏、愛宕山からの江戸市街、東禅寺山門、といった鎌倉・江戸の風景写真にくわえて、日本の役人、火鉢の傍に座る和服の女性、脈を診る医師、手を合わせる僧、走る飛脚など、日本人の風俗をとらえた写真も含まれています。

◆写真家 F・ベアトについて

写真家フェリーチェ・ベアト (Felice Beato 1832～1909) は 1863 年 (文久 3) に来浜しました。ベアトは 1850 年代から 70 年代にかけてインド、中国、日本、朝鮮など東洋を股にかけて写真撮影活動をおこなった当時の写真家の第一人者で、日本では横浜にスタジオを構えて幕末～明治初期の日本各地の風景を撮影したことが知られています。



カメラを構えるベアトとキャンバスに向かうワーグマン (ジャパンパンチ 1866.4 横浜開港資料館所蔵)



F.ベアト肖像 (出典：ウィキペディア、パブリックドメイン画像)

◆協定締結の内容について

協定書の締結をもちまして、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団および株式会社三陽物産は、双方の特色を活かし、管理運営施設の事業において、次の事項について相互に連携し協力いたします。

(1) 株式会社三陽物産および代表取締役山本博士が所蔵し、乙が管理運営する施設に寄贈または寄託する歴史資料の調査研究、維持管理に関すること。

(2) 双方が管理運営する歴史的建造物および文化財展示施設における展示・監修等に関すること。

(3) 双方が主催する展覧会や講座・講演会等の市民を対象としたイベントの実施に関すること。

(4) 双方が主催又は共催するイベントに関する情報発信の企画、広報、集客に関すること。

◆株式会社三陽物産について

- ・代表取締役社長 山本博士
- ・神奈川県横浜市中区長者町 9-155
- ・昭和 37 年 7 月創業
- ・店舗情報:1962 年創業。市内で老舗洋菓子店「横浜モンテローザ」を運営し、昨年は横浜駅構内にロイヤルエクスプレスとコラボした「ロイヤルカフェ 横浜モンテローザ」も開店。

「お菓子を通じて横浜の歴史・文化を継承する」を企業スローガンに、「宮川香山 眞葛ミュージアム」の運営や、戦前の西洋館「山手133番館」の取得・保全など、持続可能な歴史まちづくりにも積極的に取り組んでいます。

・株式会社三陽物産の「横浜の歴史文化」の普及啓発に関する取り組み実績については別紙参照



パティスリー モンテローザ横浜本店

◆公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団について

- ・代表理事 佐藤 信
- ・神奈川県横浜市都筑区中川中央1丁目 18-1 横浜市歴史博物館内
- ・平成4年9月設立
- ・管理施設:横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館、横浜市三殿台考古館、埋蔵文化財センター(業務委託)、横浜市史資料室(業務委託)、横浜市八聖殿郷土資料館(管理委託)、他

・業務内容:横浜に関連した歴史の理解に役立つ国内外の資料や文化財の収集・保管、調査・研究を行うとともに、その成果を活用し、児童・生徒や市民の求める

「横浜の歴史」の学習意欲に応える展示、閲覧、出版等の普及啓発を行い市民と共有することで、市民文化の発展に寄与することを目的として、横浜市の出資により設立された公益財団法人です。



株式会社三陽物産からのご寄附により整備された、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館中庭の屋外展示（神奈川台場の石垣の石、明治5年創業の横浜瓦斯局の遺構）

お問合せ先

●公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜開港資料館 TEL 045-201-2100

副館長：青木祐介 担当：羽毛田智幸 広報担当：久保暢子、加藤七海

●株式会社三陽物産 企画デザイン室 TEL 045-271-2202

担当：野海道 貴士